

「地域の絆づくりを学ぼう」 第1回ワークショップ開催概要

日 時	平成30年9月20日(木) 19:00~21:00	
場 所	瑞穂市民センター 第2会議室	
コーディネーター	NPO法人ぎふNPOセンター理事長 野村 典博 氏	
受講者	20名	
主催者	岐阜県環境生活部県民生活課 瑞穂市企画部市民協働安全課	
内 容	<p>◆開講式</p> <ol style="list-style-type: none"> 挨拶 (瑞穂市企画部長) 講座の趣旨説明 (県担当者) コーディネーターの紹介  <p>▲コーディネーターの野村先生</p> <p>◆第1回ワークショップ</p> <ol style="list-style-type: none"> 講演 <p>演題:「子ども・若者支援のネットワークと地域づくり」 講師: NPO法人仕事工房ポポロ理事長 中川 健史 氏</p>  <p>▲講師の中川先生</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><団体名の由来> 仕事工房は、少額でも自分で自由になるお金を稼げる仕事をつくりたいという想いを込めた。 ポポロは、イタリア語で「人々」という意味。市民に関われ議論できる場になるとよいという想いを込めた。</p> </div> <p>日頃行っている活動の内容を交えながら、地域づくりを行う際の心構え等について、ご講演いただきました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>(1) ネットワークの必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク=網、網には結び目がある。情報を独占するのではなく、結び目に集まった情報をみんなが利用できるようなるとよい。 ネットワークは見えない建築物である。見えない建築をするのは行政ではなく市民であり、作られたネットワークは市民の共有資産となる。 <p>(2) 問題の見える化</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題が見える化することで、多くの方に知ってもらうことができると共に、困難を抱えている方に、自分だけではないと安心を与えることができる。 <p>(3) 接し方</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談に来た方に対し、決して「できない」と言わない。自分にできないことであっても、できる人を紹介する等寄り添うことが大切。 シニア世代と若者世代が会話をする場合、シニア世代が説教のような話ぶりをしてしまう傾向にある。会話は対等・平等を心がけ、丁寧に話を聞く必要がある。 <p>(4) 今後</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域には、困りごとが多くあり、困りごとを解決するための仕事もあるということ。収益があまり見込めないが、そういうところに若者たちが携われる仕事をつくれるようになるとうい。 必ずしも、できないことをできるようにする必要はない。できないことは手伝ってもらい「できないことをできないと言える社会」になることが必要。 </div>	

2 意見交換

4グループに分かれ、自己紹介をすると共に、中川先生の講演を聞いて思ったことについて話し合いました。



<主な意見>

- 「見える化」は重要なことだが、見える化するまでのプロセスが難しい。
- 個人情報の問題があり、情報共有することが難しい。地域で要支援者の情報等をどう入手し、共有していくかが今後の課題。
- 支援する側・される側には少し壁があるように感じる。支援される側の方が声を上げやすい環境づくりが必要。